



資源循環型カーボンブラックを一部乗用車向け量産タイヤに初採用、宮崎工場で生産を開始

2025年12月17日

住友ゴム工業株式会社

DUNLOP（社名：住友ゴム工業(株)、社長：山本悟）は、使用済みタイヤなどをケミカルリサイクル※して製造する資源循環型カーボンブラックを、一部乗用車向け量産タイヤに初めて採用しました。11月から宮崎工場で生産を開始し、資源循環の取り組みを加速します。



三菱ケミカル株式会社と協業で資源循環型カーボンブラックを製造



レース用タイヤに採用。SUPER GTで終始安定した性能を発揮



一部乗用車向け量産タイヤの生産を開始

資源循環型カーボンブラックはタイヤ製造工程で発生するゴム片や使用済みタイヤをケミカルリサイクルすることで製造されるもので、2025年1月から三菱ケミカル株式会社と協業で取り組みを進めてきました。

8月には『2025 AUTOBACS SUPER GT』第4戦のGT300クラスに本原材料を採用したレース用タイヤを実戦投入し、装着車両が2日連続優勝を果たしました。最新の車両が投入されるタイヤ開発の最前線にあたるモータースポーツ分野において、終始安定した性能を発揮しました。

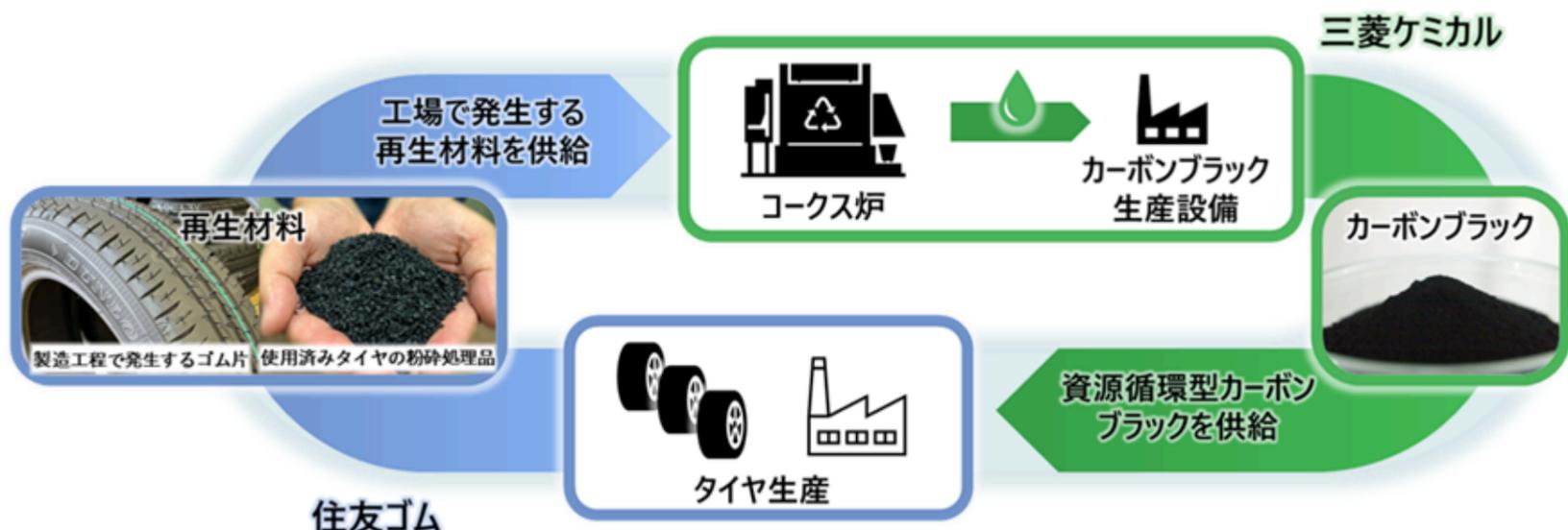
資源循環型カーボンブラックの一部乗用車向け量産タイヤへの採用は、タイヤ事業における循環型ビジネス（サーキュラーエコノミー）構想「TOWANOWA（トワノワ）」を具現化する取り組みの一環です。「TOWANOWA」はバリューチェーン上の5つのプロセスからなる「サステナブルリング」と各プロセスから収集したビッグデータを連携させる「データリング」で構成されており、二つのリング間でデータを共有・活用することで新たな価値提供を目指します。「TOWANOWA」に基づき、これまでもサステナブル原材料の活用推進など、環境負荷低減に向けた取り組みを進めています。



今後も当社は、「TOWANOWA」の実現を通じて、環境負荷低減、タイヤの高性能化および安全性向上、ソリューションサービスの拡大に取り組みます。これらの活動を通じて、お客様に新たな価値を提供するとともに、持続可能な未来とモビリティ社会の実現に貢献します。

■資源循環を支える協業体制

住友ゴムと三菱ケミカルは、両社の協業体制のもと、タイヤの主原料であるカーボンブラックにおける資源循環の取り組みを進めています。住友ゴムは、タイヤ製造工程で発生するゴム片や、使用済みタイヤの粉碎処理品（再生材料）を三菱ケミカルに供給します。三菱ケミカルは、それらをコークス炉に投入してケミカルリサイクルすることで、資源循環型カーボンブラックを製造します。現状、燃焼され熱源として再利用されているゴム片や使用済みタイヤを、資源として再利用するシステムを構築することで、CO₂排出量を削減することが期待できます。



※ ケミカルリサイクル: 使用済みの資源を化学的に分解し、原料に変えてリサイクルする方法

<ご参考>

資源循環型カーボンブラック採用タイヤで、SUPER GT第4戦GT300クラスで2日連続優勝（ニュースリリース発行：2025年8月8日）：<https://www.srigroup.co.jp/newsrelease/2025/sri/2025-70dvq|4p00000v50jh.html>

住友ゴムと三菱ケミカルがタイヤ用カーボンブラックにおける資源循環の取り組みで協業を開始（ニュースリリース発行：2025年1月30日）：https://www.srigroup.co.jp/newsrelease/2025/sri/2025_006.html

タイヤ事業におけるサーキュラーエコノミー構想「TOWANOWA（トワノワ）」を策定（ニュースリリース発行：2023年3月8日）：https://www.srigroup.co.jp/newsrelease/2023/sri/2023_018.html

Copyright c Sumitomo Rubber Industries, Ltd. All rights reserved.